

教育部門関連質問



(尺田議員)

Q 中・高一貫教育、小・中一貫教育について問う。

A 中・高については初期の段階で、小・中については条件面が整っていない。
(西原教育長)

Q 中・高一貫教育について、形骸化しているのではないかと。また、具体的な成果は。

A 平成11、12年度の2年間、県教育委員会より中・高一貫教育モデル校の指定を受け、町内2つの中学校と熊野高校との連携型タイプでの研究を行ってきた。現在は、両中学校生徒による熊野高校のオーブンスクールへの参加や、芸術コースへの体験入学、また、教員同士のスポーツ活動や生徒の実態の協議を行い、互いの意思疎通を図っている。いづれにしても、まだ初期の段階で真の中・高一貫の形態になっていないのが実状である。

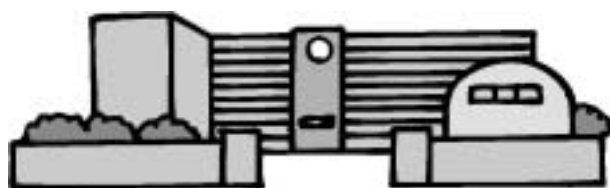
Q 教育行政が一体化している小・中一貫教育の方が安易と考えるが、実施する計画はあるか。

A 他の自治体では導入計画があるところ、または、既に始まっているところもあるが、本町においては現在、施設、運営方法、保護者の理解、教師の認識の度合い等といった条件が整っていない状態である。教育委員会としては、子どもたちが中学校に入学後も、心豊かに成長するよう教員とも連携し、保護者に信頼される学校教育の推進に取り組んでいく。

(大瀬戸議員)

Q 熊野中学校、熊野東中学校の両校を統合する考えはあるか。

A 各方面と協議し総合的に見極めていきたい。
(立花教育部長)



Q 今後の少子化を踏まえ、様々な観点からも熊野中学校と熊野東中学校の両校を統合することが望ましいと考えるがどうか。

A 平成13年度の通学区域弾力化制度の導入後、両校は特色ある学校づくりを行っており、鋭意努力している姿が伺える。全国的な少子化が進んでおり本町も例外ではないが、10年後の学級数は全体で1学級(40人)の減となる見込みが出ており、学級数としては必ずしも大きな減少にはならないと考えている。統合には様々なメリット・デメリットが考えられるが、現状を踏まえ各方面と協議を行い、総合的に見極めながら将来の学校のあり方を考えていきたい。